

西中島南方駅(地下鉄御堂筋線)② 南方から淀川沿いに柴島へ

南方駅(阪急京都線) 柴島駅(阪急千里線)

「大阪あそ歩マップ集」
その2 No.054



地下鉄西中島南方駅

①水道記念館

大正3年(1914)から昭和61年(1986)まで主力ポンプ場として使われた旧第1配水ポンプ場を活用し、通水100周年を記念した平成7年(1995)に水道記念館がオープンしました。館内では希少生物であるイタセンパラやアユモドキなど淀川水系の生き物を間近で見ることができ、また、大阪市の上水道の歴史を学ぶことができます。赤レンガ、御影石を用いた建物は宗兵蔵そうへいざうの設計で、国の有形文化財として登録されています。開館時間：9時30分～16時30分(入館は16時まで)。入館料：無料。休館日：月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)、年末年始。

②柴島浄水場

明治初期に大流行したコレラによって、大阪府内は死者、患者が溢れました。また、明治23年(1890)に新町焼けが起こりましたが、水道が普及しておらず消火に苦労しました。そのため、市民から水道敷設が希望され、桜の宮に水源をを設置し、大阪城天守閣東側の貯水池から自然流化方式で水を供給することが明治24年(1891)に決まり、その4年後に桜の宮水源が完成しました。これが大阪市内での上水道供給のはじまりであるとともに、それまで川水を汲み上げて水売りを行っていた「水屋」の廃業のときでもありました。その後、明治30年(1897)の大阪市域拡張に起因する人口増加は水不足を招き、明治40年(1907)に新たに柴島に水源を建設す

ることが決まりました。晒業者による反対を押し切る形で水源地工事は着工し、大正3年(1914)に当時東洋最大規模の水源が誕生しました。



③淀川河川敷(柴島晒)

柴島の綿布晒業のはじまりは文禄3年(1594)とされ、17世紀前半の図屏風に柴島晒をつくる女の姿が描かれ、『澱川両岸名所一覽』や『浪花百景』にも柴島晒場が描かれています。布木綿を淀川の流れてそそぎ、広大な堤の芝で真白な晒を並べることができ、立地条件にも恵まれ、晒業は先祖代々柴島の地で受け継が

れてきました。字地名には調布という名が残っていました。柴島に水源を建設することが決まった明治40年(1907)に晒業者から出された水源設置反対の陳情書によれば、300年以上の歴史と当時の従事者数百名が生計の道を失うことの損害が切実に訴えられています。大阪市内への清浄な上水道供給の裏には晒業者の悲劇がありました。



④淀川大堰・毛馬閘門

堤防に上がると、淀川大堰が見え、対岸に毛馬閘門が見えます。

地下鉄西中島南方駅

